

ライフサイエンス・アントレプレナー入門塾 2022

講師プロフィール

21名

【主催】公益財団法人都市活力研究所【共催】神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科

2022年5月28日（土）

「リーダーシップの本質と実践」



能見 貴人

FORESIGHT & LINX 株式会社 代表取締役社長

【概要】

今日、あらゆる局面でリーダーシップの重要性が唱えられているが、一方でリーダーシップの本質とは何かという問いに明確に答えられる人は少ない。多くの場合リーダーシップとマネジメントが混同され、組織でのリーダーシップ開発が間違った方向に進められているケースも少なくない。本講では、リーダーシップに関する様々な疑問に答えつつ、リーダーシップの本質を定義し、リーダーとして心に留めておくべき重要な点を解説する。

【略歴】

- ・ FORESIGHT & LINX 株式会社 代表取締役社長 (2017 May ~) FORESIGHT & LINX (株) は、国内外の製薬企業やバイオベンチャーのオープンイノベーション、事業開発、創薬戦略に対するコンサルティングと実行支援を行う会社です。特に、海外と国内の企業間でのパートナーリングを専門としています。
- ・ Director, External Science & Partnering, Sanofi Global R&D (2014~2017)
- ・ 製薬研究開発&事業開発 コンサルタント (2007~2014)
- ・ リーダーシップ開発 コンサルタント & 幼児の創造性開発のための教室 主宰 (2007~2014)
- ・ GSK筑波研究所 所長 (2002~2007)、生物科学研究部 部長 (1999~2007)
- ・ ノバルティス 移植研究領域 マネジャー (1996~1999)
- ・ 岡山大学工学部生物応用工学科 助教授 (1990 1996)
- ・ Roche分子生物学研究所 ポスドク (1989~1990)
- ・ 大阪大学産業科学研究所 助手 (1986~1990)
- ・ 東京大学大学院薬学研究科 博士課程修了 薬学博士 (1986)

2022年5月28日（土）

「ライフサイエンスでの起業：Nexuspiral設立での経験」



増田 直之

Nexuspiral株式会社 代表取締役社長

【概要】

私は2019年に共同研究者とともに、Nexuspiral株式会社を立ち上げました。起業をするのは初めてであり、試行錯誤を繰り返しながらここまで進めてきました。特にライフサイエンス分野での起業は、参考になる例も少ないことからわからないことばかりでした。ライフサイエンス分野での起業・新規事業立ち上げなどにおいて少しでもお役に立つことがあるかもしれません。会社設立までの経緯と立ち上げた後の様々な経験について、お話しさせていただければと思います。

【略歴】

博士(工学)、経営学修士

1998年～2014年 アステラス製薬株式会社(創薬研究、神経科学Gにて精神疾患治療薬研究に従事)、2014年～2015年 米国 Agensys Inc.(米国ベンチャー企業にて抗体薬物複合体による新規抗がん剤創出研究に従事。)、2015年～2016年 アステラス製薬株式会社(新規技術の科学性評価を担当し、技術導入・外部連携の推進)、2016年～2019年 神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科 特命准教授(大学発の科学技術の商業化、ベンチャー創出支援、アントレプレナーシップ教育の推進)、2019年より現職

2022年6月18日（土）

「産総研におけるマイクロバイオームの産業化に向けた取り組み」



関口 勇地

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
生命工学領域 バイオメディカル研究部門 総括研究主幹

【概要】

国立研究開発法人産業技術総合研究所(産総研)は我が国最大級の公的研究機関として日本の産業や社会に役立つ技術の創出とその実用化、技術シーズを事業化に繋げるための橋渡し機能に注力しています。弊所におけるライフサイエンス分野での取り組みをご説明します。特に、その事例の一つとして演者が関係するマイクロバイオームの産業化に関する事例も取り上げます。多種の微生物群で構成されるマイクロバイオームは、地球環境の保全から人の健康に至るさまざまな場面で重要な役割を担っています。特に人と直接接触する腸管等ヒトマイクロバイオームは、疾患等の診断用マーカーや創薬ターゲットとして注目されています。その概説、弊所での本分野で研究開発の概要および産業界との連携について紹介します。

【略歴】長岡技術科学大学の助手を経て2001年より産総研の入所。以来、環境微生物の解析技術開発から難培養微生物群の実態解明、バイオ計測の精度管理・標準基盤整備、ヒトマイクロバイオーム解析等の研究開発に従事。2006年から研究グループ長、2016年から経産省商務情報政策局生物化学産業課課長補佐、2018年から産総研生命工学領域バイオメディカル研究部門総括研究主幹。

2022年6月18日（土）

「マイクロバイオーム創薬スタートアップ実例紹介」 - 設立とテクノロジースカウティングの舞台裏 -



塩田 淳

日本マイクロバイオファーマ株式会社 代表取締役社長
慶応義塾大学 医学部 微生物学・免疫学教室 特任教授

【概要】米国やイスラエルにおけるマイクロバイオーム創薬スタートアップの設立やテクノロジースカウティングの実例の通じて、どのようなプロセスでスタートアップが立ち上がっていくのかその舞台裏を紹介いたします。創業者の情熱、そして技術やサイエンスなどで語られがちが創薬ベンチャーですが、起業に至るには、人とヒトの繋がりによる連鎖反応がとても重要な役割を果たしています。イノベーションは、異文化の接点で生まれる事を実感して頂ければと思います。

【略歴】国内の化学会社(JSR株式会社)にて、半導体関連の研究開発、事業開発に20年間従事した後、2009年よりライフサイエンス事業の立ち上げをリード。自社による商品開発にM&Aを加え事業ポートフォリオの構築を進めた。2016年からは、慶應義塾大学 医学部とのオープンイノベーションセンター(JKiC)の運営を担当。マイクロバイオーム創薬スタートアップである Vedanta Biosciences Inc. へ投資を行うとともに、投資先への大学知財の導出によるパイプライン構築を進めた。

慶応義塾大学 医学部 特任教授 (2016.8～)

AMED LEAP「腸内細菌株カクテルを用いた新規医薬品の創出」プログラムマネージャー (2016.10～2021.3)

Vedanta Biosciences Inc. Board Observer (2018.2～2021.10)

JSR株式会社 退社 (2021.10)

日本マイクロバイオファーマ株式会社 代表取締役就任 (2022.3)

2022年7月23日（土）

「勃興するバイオエコノミーと岐路に立つ日本」

講演 デジタル×バイオ時代の到来と神戸大学の挑戦

山本 一彦

神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科 教授

神戸大学大学院 経営学研究科(MBA) 教授(兼任)

神戸大学先端バイオ工学研究センター バイオエコノミー研究部門 部門長

株式会社科学技術アントレプレナーシップ (シード・アクセラレーター) 共同創業者・取締役

株式会社シンプロジェン (DNA合成) 共同創業者・代表取締役(社長兼CEO)



【概要】

- ・ 合成生物学(DNA合成、ゲノム編集等)とデジタルプラットフォーム(AI、Robotics、IoT等)の急速な発展と融合によって、微生物/植物/動植物細胞/藻類等の生物資源を使って、有用物質を安定的かつ大量に生産し、利用することができる、バイオエコノミー時代が到来した。
- ・ 勃興するバイオエコノミーと岐路に立つ日本の現状及び課題を、海外の先端事例等を交えながら考察する。
- ・ 日本の現状と課題をふまえ、わが国のバイオエコノミーを牽引しうる「デジタル×バイオ」時代のベンチャー・エコシステムの構築を目指す神戸大学の取り組みを紹介する。

【略歴】

住友電気工業(株)、(株)野村総合研究所(企業財務調査室)を経て、ベンチャー企業などで財務、経営戦略の責任者を経験。1998年に独立系ベンチャーキャピタルを創業し、代表取締役に就任。創業期専門のベンチャーキャピタリストとして、長年にわたりベンチャー企業の投資育成に取り組む。

2016年1月に神戸大学発ベンチャーの創業支援等を目的に設立された(株)科学技術アントレプレナーシップの取締役に就任(兼業)。

2016年4月に神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科の教授に就任。2021年12月、株式会社シンプロジェンの代表取締役(社長兼CEO)に就任(兼業)。

- 一橋大学商学部経営学科卒業

2022年7月23日（土）

「勃興するバイオエコノミーと岐路に立つ日本」

鼎談 神戸大学発バイオベンチャー 新モダリティへの挑戦



白川 利朗

神戸大学大学院 科学技術イノベーション研究科 教授

株式会社イムノロック 共同創業者・取締役

【略歴】

神戸大学医学部医学科を卒業後、神戸大学 大学院医学研究科 腎泌尿器科学分野助手、感染症センター 准教授、大学院保健学研究科 国際保健学領域 教授等を経て現職。

癌遺伝子治療薬の研究開発、ビフィズス菌を用いた経口ワクチンの開発、病原菌の遺伝子解析による分子疫学、薬剤耐性獲得機序の研究が主な研究テーマ。

米国ヴァージニア大学泌尿器科留学時に開発に携わった癌遺伝子治療薬の臨床研究を、2003年～2006年に神戸大学病院において実施し、2007年に日本遺伝子細胞治療学会の学会賞を受賞。

GMP準拠CPCを用いた遺伝子治療薬CMO事業等を行うベンチャー企業として、ジーンメディスンジャパンの 創業・運営に携わる(2003年～2019年)。

AMEDの大型資金を獲得してビフィズス菌を用いた経口ワクチンプラットフォームによるがんワクチンの研究開発を臨床試験入り直前まで進め、その技術シーズを基に、2021年イムノロック(創薬ベンチャー)を創業し、取締役に就任(兼業)。

- 神戸大学医学部医学科 卒業 (MD)
- 神戸大学大学院医学研究科 卒業 (PhD)
- 日本遺伝子細胞治療学会 評議員

2022年7月23日（土）

「勃興するバイオエコノミーと岐路に立つ日本」

鼎談 神戸大学発バイオベンチャー 新モダリティへの挑戦



奥村 亮

株式会社バイオパレット 取締役(CSO/CBO)

【略歴】

1998年、北海道大学大学院薬学研究科を修了後、第一製薬株式会社（現・第一三共株式会社）に入社、創薬第一研究所に配属。キノロン系抗菌薬（グレースビット、DC-159a、DX-619、DS-8587）の薬理研究および上市に成功したクラビットおよびグレースビットのLCM（Life cycle management）研究に従事。

2009年、博士号取得後、米ハーバード大学・マサチューセッツ総合病院のHooper教授ラボに留学。

帰国後、2010年から口腔細菌叢、2013年から腸内細菌叢を標的にした新規創薬研究を主任研究員として牽引。2017年、欧州最大の応用研究機関である独フラウンホーファーと日本の製薬企業で初めて共同研究を開始。2018年から第一三共株式会社 希少疾患ラボラトリー、同社 スペシャルティ第二研究所の各グループ長を歴任。20年以上の企業研究者のキャリアの中で、国内外合わせて50件以上のアカデミアおよびベンチャー企業等との共同研究を経験。

（専門分野）細菌感染症（低分子薬）、マイクロバイーム関連疾患、希少疾患、中枢神経疾患、遺伝子治療を含む様々な新規創薬モダリティ研究

2021年12月、株式会社バイオパレットの取締役 Chief Scientific Officer 兼 Chief Business Officerに就任（現任）。

- 北海道大学大学院 薬学研究科 修士課程修了
- 千葉大学大学院 医学薬学府 博士課程修了（薬学博士）
- 2012～2021年 日本化学療法学会 評議員

2022年7月23日（土）

「勃興するバイオエコノミーと岐路に立つ日本」

鼎談 神戸大学発バイオベンチャー 新モダリティへの挑戦



山田 尚之

株式会社シンプロジェン 取締役(CTO)

【略歴】

1990年、味の素株式会社に入社。分析化学を専門とし、バイオ医薬品、食品用酵素等の分析・構造解析技術の研究開発に従事。先端分析研究および動物細胞用培地開発のグループ長として、6年間のマネジメント経験。

2017年より、国立研究開発法人 日本医療研究開発機構(AMED)の創薬事業部 医薬品研究開発課(調査役)で、創薬・医薬品開発および遺伝子治療に関わる創薬基盤研究開発のファンディング業務(技術戦略策定・プロジェクト企画立案・運営・予算管理等)に従事。

2022年4月、株式会社シンプロジェンの取締役(CTO)に就任(現任)。

- 千葉大学大学院理学研究科修士課程 修了
- 東京大学 論文博士(農学)

【兼職】

- 横浜市立大学 生命医科学研究所 客員教授
- 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 専門調査委員
- 一般社団法人 日本質量分析学会 BMS研究会 世話人 (*BMS: Biological Mass Spectrometry)

2022年8月20日（土）

「SDGsの世界感を体験する SDGsワークショップ」



今田 大介

一般社団法人インバウンド・ダイバーシティ協会 代表理事

【概要】

SDGsとは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で2015年9月に国連加盟国193カ国全会一致で採択されました。2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた17の目標です。

最近メディア等でも取り上げられている「SDGs」。17のゴール、169のターゲットなど聞かれたことのある方もいらっしゃると思います。

今回は、座学でSDGsを学ぶのではなくワークショップ形式で、カードゲームでSDGsの世界感をシュミレーション体験し、SDGsをライフサイエンス分野にてどのように取り入れることができるか一緒に考えましょう。

(※コロナ等で対面でのカードゲームができない場合は、オンラインによるSDGsの講義になります)

【略歴】

尼崎市SDGs推進アドバイザー ・ 神奈川SDGs社会的インパクトマネジャー

三郷町SDGs推進コーディネーター

SDGsゲームファシリテーター(「2030SDGs」「SDGs de 地方創生」「SDGsアウトサイドイン」)

自治体や企業等のアドバイザーや社会的インパクト評価/マネジメント手法による民間企業のSDGs事業開発支援業務等を行いながら教育現場(小学校から大学院まで)においてSDGsについての授業・講義を実施するなど、SDGsの普及啓発・アクションに取り組んでいる。

※MOT6・MOT7の修了者

2022年8月20日（土）

「製薬産業におけるオープンイノベーション」



有岡 伸悟

塩野義製薬(株)事業開発部 オープンイノベーショングループ

【概要】

近年、製薬会社単独で医薬品を上市する事は難しくなっている。そこで、多くの製薬会社が、アカデミアやベンチャー企業で見出された新規アイデアや医薬品の種を見出し、うまく開花させる取り組みに力を入れている。今回は、上記取組を概観すると共に、弊社の事例をご紹介します。また、私も皆さんと同じMOT講座受講生でした(MOT4-6)。MOT講座で学んだ事や、得られたネットワークをどの様に実業務に生かすことが出来たのか、受講生に近い視点で共有できればと思います。

【略歴】

2004年：大阪大学大学院工学研究科博士前期課程

2004年：塩野義製薬株式会社入社

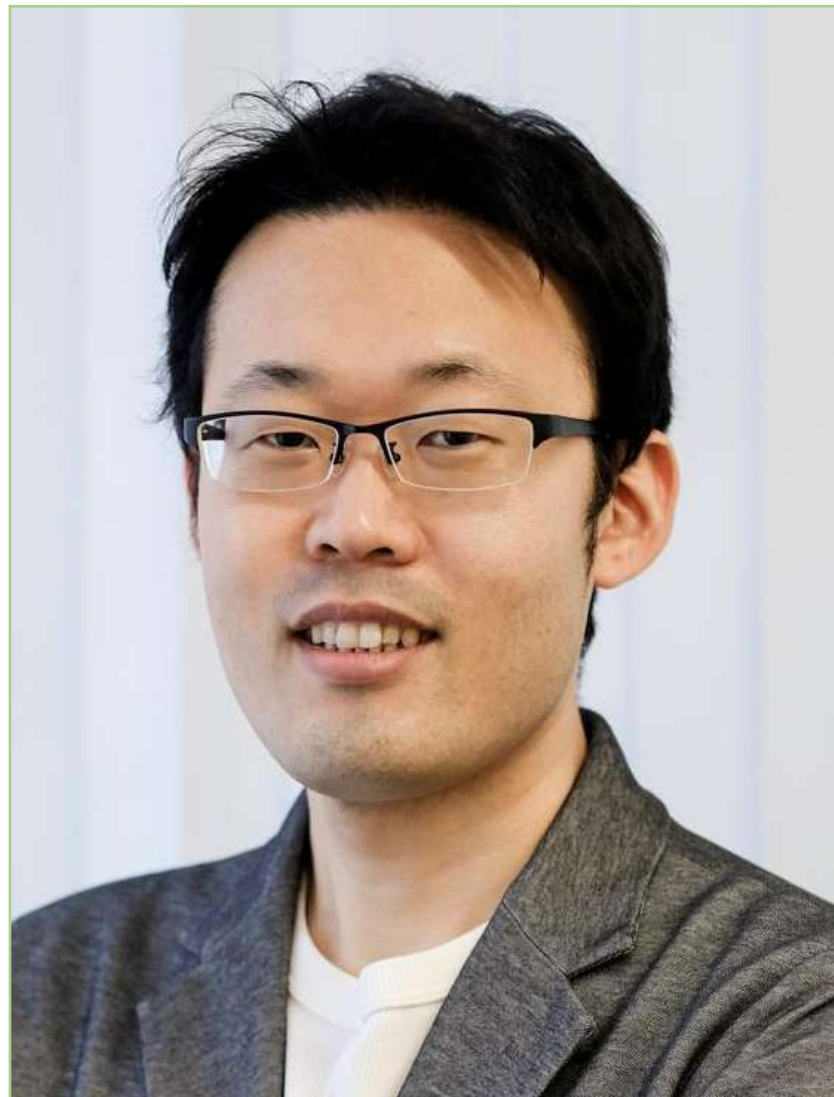
2004年～2014年：塩野義製薬株式会社にて創薬研究に従事

2010年：北海道大学生命科学院博士後期課程修了

2015年からオープンイノベーション業務に従事。現在は、事業開発部にてアカデミアやベンチャー企業で生まれたシーズの発掘や協業体制構築、そして、複数企業が参画するコンソーシアムを活用した研究基盤構築等に関わる。

2022年9月10日（土）

「IT業界のメソッドに学ぶ経営戦略とマネジメント手法」



中井 亮

株式会社エー・インテリジェンス 代表取締役
/ 一般社団法人キャン・イット 代表理事

【概要】

本質的に0と1というたった2つの数字に支配されるIT技術は、論理的思考の神髄とも言えます。そうしたIT技術の発展の歴史の中でこれまで生み出され、体系化されてきたさまざまなメソッドは、非常に合理性が高いだけでなく、IT業界以外の一般社会やビジネスにおいても汎用性が高く有用なものが数多く存在しています。本講義ではその中でもベストプラクティスとされるものを中心に、経営戦略の立案やマネジメントに役立つものなど、これから新たなビジネスに挑戦される皆様にもぜひ取り入れていただきたいメソッドをご紹介します。

【略歴】

ITコーディネータ、(経済産業省認定)登録情報セキュリティスペシャリスト。
自治体系中小企業支援機関や民間企業のIT管理者を経験後、2016年に独立。
DXや情報セキュリティをはじめとするICT活用全般について、中小企業やスモールビジネスの実状やニーズを捉えた、同じ目線からの幅広いコンサルティングに強みを持つ。
官公庁や自治体系IT支援機関においても専門家相談員やセミナー講師として活躍中。
ボトムアップによる日本社会のITレベル向上を目指し、IT人材の育成を支援する(一社)キャン・イットを新たに設立し、その代表理事も務める。

2022年9月10日（土）

「グローバル化の壁：20%の仲間入りを果たす方法」



川邊 裕

独立行政法人日本貿易振興機構 神戸貿易情報センター 係長

【概要】

起業家の80%が国際化を志す一方で、実際に世界市場に展開する起業家は全体の20%にも満たないとするデータがあります。本講義では先人起業家たちが国際化に踏み出せずにいる背景をアンケート調査結果やこれまでの支援事例に基づき解説し、多くの起業家が直面している壁の存在を明らかにします。講義後半では60%の起業家と同じ道を歩みたくない方に向けて、国際化を志した際に有用な支援サービスの探し方、支援機関の内情を踏まえた上手な活用方法についてご説明します。

【略歴】

独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）に入構後、東京本部企画部にて海外事務所の新設業務などに従事。2018年6月より現職、外資企業の国内事業立ち上げや県内企業海外展開の支援業務に従事。神戸大学大学院経営学研究科修了（MBA）。

2022年9月10日（土）

「産学官連携による事業創出に向けての取組み」



小島 ゆかり

(株)COPELコンサルティング 代表取締役CEO

【概要】

ヘルスケア分野の事業創出支援を2012年から行っており、その中で企業とアカデミアの方々のマッチングや、セミナー等の企画・運営を行ってきました。

起業した後は、主にヘルスケア分野の事務局運営や組織マネジメントを行うとともに、中小企業の経営支援、事業創出支援を行っています。

起業から現在までの産学官連携の取組みや地域と共創するにあたっての課題、今後の展望について事例を交えてお話いたします。

【略歴】

人材派遣会社、金融系シンクタンク、経営コンサルティング会社を経て、2019年3月に(株)COPELコンサルティング

2022年10月15日（土）

「事業化を目指す研究者のための 特許と契約」



浅野 滋啓

国立循環器病研究センター 産学連携本部長

【概要】

様々な企業や大学等とのコラボレーションを多数推進してきた実体験を踏まえ、研究開発から事業化における知財戦略や契約交渉を中心に、企業の知財戦略が大学等のそれとどこが違うのか、企業はどんな点を重視しているか、企業とアカデミアの産学連携・企業間の共同研究開発を如何に上手く進めるか等、具体的事例を含めてお話しします。研究成果を事業につなげ成功させる上で、特許の観点で先ず考えるべき重要ポイントに絞り、研究開発、事業開発、企画、営業その他、あらゆる部門の方々も(法律の条文や契約書の文言など難しいことは分からなくても)、最低限ここだけは押さえておきたい特許や契約のエッセンスと考え方について、皆様と一緒に考えたいと思います。

【略歴】

1987年 京都大学大学院・農学研究科農芸化学専攻 修士課程修了
1988年 武田薬品工業株式会社 生産技術研究所・バイオ技術センター・研究員
1994年 武田薬品工業株式会社 特許部・特許出願グループ・課長代理、知財情報グループ・主席部員
2002年 Takeda Europe R&D Center (ロンドン駐在、3年)
2005年 武田薬品工業株式会社 知的財産部・シニアマネージャー
2015年 武田薬品工業株式会社 Strategy & Operations, IP & Alliance Director
2017年 九州大学 ARO次世代医療センター 特任准教授
2019年 藤田医科大学 産学連携推進センター 教授
2020年より 現職

(他に 日本ライセンス協会(LES Japan)理事、UNITT(大学技術移転協議会)理事、九州大学・先端医療オープンイノベーションセンター 外部アドバイザー、株式会社ジェクスヴァル シニアアドバイザー など兼任)

2022年10月15日（土）

「医療機器開発の現状と課題」



保多 隆裕

神戸大学 未来医工学研究開発センター/医学部附属病院
臨床研究推進センター 特命准教授

【概要】

わが国の医療機器市場規模はおよそ3兆円で、年々拡大しているものの、欧米や新興国に比べてその成長率は低く、数年のうちに中国に追い抜かれるのは確実である。加えて国内市場の多くは欧米製品で、特に治療系機器の輸入依存度は際立っており、医療機器の貿易収支は1兆円規模の大幅赤字である。講義では医療機器の開発のプロセスおよび日本の医療機器産業の現状と課題、さらには医療機器産業のエコシステムについて解説する。

【略歴】

内資・外資の製薬会社で10年余り創薬研究に励んだ後に退職。海外の大学院で博士号を取得し、上席研究員としてとどまる。帰国後は神戸大学医学部附属病院で医薬品、医療機器などのトランスレーショナルリサーチを実施。現在、2023年度に神戸大学大学院医学研究科に設置する医療機器開発人材のための新専攻（修士、博士）の開講準備中。

2022年11月19日（土）

「名もなきパソコン少年が医療機器ベンチャーを起業して感じた 人生において大切なこと」



中村 秀剛

アットドウス株式会社 代表取締役 / 中小企業診断士
/ 東洋大学大学院経営学研究科 非常勤講師

【概要】

主に以下の5つの項目にフォーカスしながら、自ら考えたこと、行動したことをご紹介します形で、参加された方が少しでも考えるきっかけ、行動するチャンスに出会うヒントとなれるよう、お話します。

- ① 起業までの経緯と起業後の歩みからひも解く起業家として大切なこと
- ② 研究開発型スタートアップで大切にしたい価値観と行動
- ③ 日本で医療機器ベンチャーを起業することの価値と役割
- ④ スタートアップエコシステムやアクセラレーション・オープンイノベーションの日本における現状
およびスタートアップから見た活用の方法
- ⑤ 海外展開におけるリバーシイノベーションという考え方

【略歴】新潟市出身。幼少よりプラモデルやコンピューターに親しむ。人と話すことよりもモノづくりに熱中し青春時代を過ごす。大学より横浜に住み、現在は大学院生の息子と妻の3人暮らし。大学卒業後は金型設計、システム開発、中小企業・ベンチャー支援に携わる。息子が1歳の時に義父が癌で他界。20年ほど入退院を繰り返す。最後は会話もできず、初孫を抱くこともできずに病院で息を引き取った。この経験からテクノロジーで患者のQOLを向上したいという想いをもち、パートナーであるCTO平藤と共に2017年9月にアットドウス株式会社を創業した。

2022年11月19日（土）

「新規事業、スタートアップにおけるファイナンス戦略」



保田 隆明

神戸大学大学院
経営学研究科・経営学部

【概要】

□企業における新規事業も、スタートアップの起業もそれを実施する資□が必要です。本講義では投資すべき案件と投資を□送る案件をどう判断するのか、□度投資すると決めた場合、資□はどのように調達するのか、そして、その結果として、リターンをステークホルダー（債権者と株主）にどのように配分するか、というのが基本内容となります。□□、近年は、伝統的なファイナンス□法以外にも、クラウドファンディングなどの新たな代替的な資□調達□法も登場しています。そして、□企業においては、CVC（Corporate Venture Capital）と呼ばれる、社内ベンチャーキャピタルを組成し、投資を□う動きもあります。それらを網羅することで、このエリアについての全体的な理解をしていきます。

【略歴】

リーマン・ブラザーズ証券、UBS証券にて投資銀行業務に従事後、2004年に起業しSNSサイトを開設。同事業売却後、ベンチャーキャピタル、金融庁金融研究センター専門研究員、神戸大学大学院経営学研究科教授、スタンフォード大学客員研究員などを経て、2022年4月より慶應義塾大学総合政策学部教授。一橋大学大学院経済学研究科客員研究員および上場企業の取締役も兼任。博士（商学）早稲田大学。

2022年12月17日（土）

「デザイン思考」



祇園 景子

神戸大学 V.School 准教授

【概要】

一言で「デザイン」といっても、服飾デザイン、建築デザイン、グラフィックデザインなど、様々な分野で使われている言葉です。本来、造形や図案、模様を考案することを意味しますが、広義では「必ずしも解が一つではない課題に対して、様々な角度から実現可能な解を見つけ出していくこと」と言えます。デザインコンサルタント会社IDEOは、デザイナーが0から1を作り出す際のマインドセットと思考について、デザイナーでない人たちも実践できるように手法を提案しました。それがデザイン思考と呼ばれ、イノベーションを創り出すアプローチとして注目されています。日本でも多くの企業がアイデアを生み出すためにデザイン思考を取り入れています。

本講義では、デザイン思考を取り入れながら、思考の発散・収束をワークショップを通じて体験していただきます。多様な人たちと一緒に対話しながらアイデアを導き出す過程を楽しんでください。

【略歴】

2002年 神戸大学大学院自然科学研究科 修了

2008年 福山大学大学院工学研究科 博士(工学) 取得

サントリーホールディングス株式会社 R&D企画部 植物科学研究所 研究員、公益財団法人新産業創造研究機構TLOひょうご 産学連携コーディネーター、神戸大学大学院医学研究科 特命助教、滋賀医科大学バイオメディカル・イノベーションセンター 特任助教、神戸大学大学院工学研究科 特命助教などを歴任し、2021年4月から現職。

2022年12月17日（土）

「高齢化社会へ向けた「質」とナッジを用いたスマートセルフケアDX」



並木 幸久博士(工学)

株式会社国際総合知財ホールディングス代表取締役社長
/九州大学グローバルイノベーションセンター 客員教授

【概要】

1)価値をお金に換えるための公理を学習し、お金を作れるビジネスと作れないビジネスの法則を解説します。
2)健康経済(Wellness Economics)と行動経済学の視点から医療・健康を含むヘルスケア領域において、「質」が新たな経済価値を創出し、ナッジ(前向き情報)を用いることで医療だけに頼らない社会保障と健康寿命の延伸を社会システムとして運用するPOC(実証試験)が始まっている。6Gの実現に連れてIoYou(Internet of YOU)が促進され、あなたが常時インターネットに接続されている生活が展開し、Augmented AgingやEnhanced QOLがヘルスケアやウェルネスの概念を刷新させる可能性と健康ナッジシステムを用いた高齢者の健康意識を改善させる事業やプロスポーツ選手の運動パフォーマンスを向上させる事業を解説しながら高齢化社会へ向けたスマートセルフケアシステムの社会実装を考察します。

【略歴】元駐日英国大使館/英国国際通商省(旧:英国貿易投資総省)ライフサイエンス/ヘルスケア専門官、南カリフォルニア大学バイオメディカル工学部、南カリフォルニア大学大学院バイオメディカル工学科、九州大学大学院エネルギー量子工学専攻卒業。シリコンバレーへ留学し、カリフォルニアで青春を過ごし帰国。価値経済工学・健康経済(WELLNESS ECONOMICS)の研究者として日本の価値創出と地方からグローバルなユニコーン企業育成による雇用創出に取り組んでいる。趣味はソムリエとして人を楽しませること。

2023年1月21日（土）

「核酸医薬品研究開発の動向」



森 一郎

株式会社ナティアス 研究開発部長
/神戸大学科学技術イノベーション研究科 客員教授

【概要】

1) 入門塾オリエンテーション

ライフサイエンス系における起業を目指すにあたり、どのような知識やマインドセットが必要なのでしょうか？ 今一度皆さんと確認しながら、当入門塾を最大限利用してただけるようにご説明します。

2) 核酸医薬品研究開発の動向

近年核酸医薬品開発の成功事例が多く報告され、身近にはコロナ治療薬としてRNAワクチンが実用化されました。ただ、核酸医薬品と言ってもその種類は多く、アンチセンス、siRNA, miRNA, mRNA等様々でそれらに関わるベンチャーが世界中に多く存在します。その概要および、化学合成による核酸医薬品(塩基長20前後)開発の現状と課題について解説します。

【略歴】外資系製薬会社にて創薬化学研究者として約20年間創薬に従事。ファイザー社のスピンオフ創薬ベンチャーであるラクオリア製薬の立ち上げに参画後、神戸大学の産学連携部門で5年間ライフサイエンス系人材育成プログラムを担当。その後2016年から5年間、同大学に新設された科学技術イノベーションの教員とし従事。2021年4月から核酸医薬系ベンチャーであるナティアス社に参画し研究開発を担当。

2023年1月21日（土）

「ベンチャースピリット」



安達 宏昭

株式会社創晶 代表取締役社長

【講義概要】

大阪大学発ベンチャー「株式会社創晶」を32歳で起業してから17年が経ちました。その間、ベンチャー起業を7回、社会福祉法人や一般社団法人の理事を経験するなど、充実した毎日を送っています。事業分野はそれぞれ異なり、多岐に渡りますが、私なりに専門性を持ち、好奇心と情熱を維持して、走破してきました。その原動力が、ベンチャースピリットであると感じています。

ベンチャースピリットは、日常生活や仕事の場面など、広く活用でき、ベンチャー起業や経営に限定されるものではありません。新しいことへの挑戦や積極的に行動するためのヒントになればと思います。

【主な略歴】

- 2003年3月 大阪大学大学院工学研究科博士後期課程, 電気工学専攻 修了, 博士(工学)
- 2003年4月 大阪大学大学院工学研究科 助手
- 2005年7月 株式会社創晶 代表取締役社長
- 2011年6月 社会福祉法人あおば福祉会 理事
- 2013年4月 株式会社創晶應心 代表取締役社長
- 2014年5月 株式会社創晶大学 代表取締役社長
- 2016年1月 株式会社dotAqua 代表取締役社長
- 2016年2月 株式会社A・P・M 創業者、取締役上席執行役員
- 2016年3月 株式会社創晶超光 代表取締役社長
- 2016年7月 大阪大学大学院工学研究科 招へい教授
- 2020年11月 株式会社HOIST 取締役
- 2020年11月 一般社団法人日本MA-T工業会 専務理事 兼 事務局長
- 2021年2月 大阪大学大学院薬学研究科 特任教授